

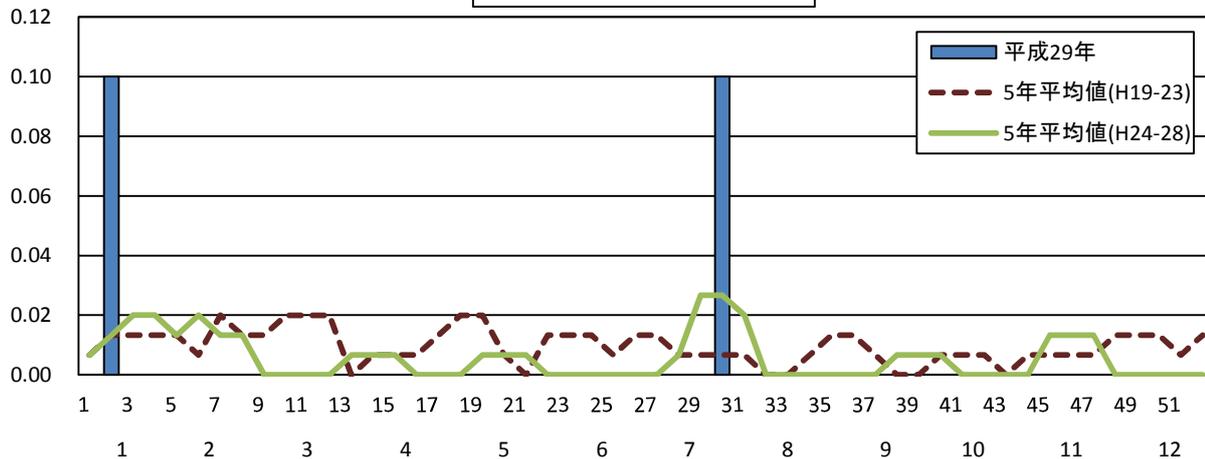
ウ 眼科定点

(ア) 急性出血性結膜炎

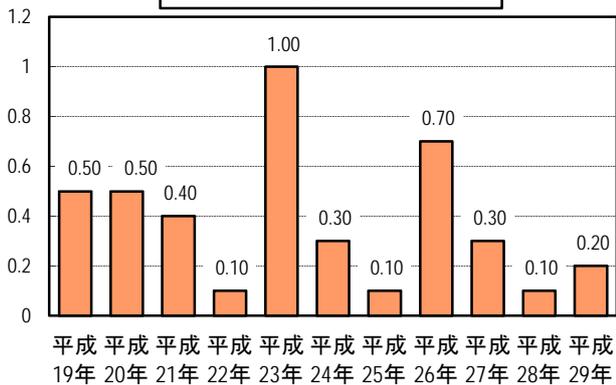
平成29年は年間報告数2例、年間定点当たり報告数0.20、年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比0.67、前年比2.00であった。

過去10年間の年間定点当たり報告数は、最も多いのは平成23年(1.00、報告数10例)、次いで平成26年(0.70、同7例)、他の年は0.5(同5例)以下であった。本年は0.2(同2例)であった。

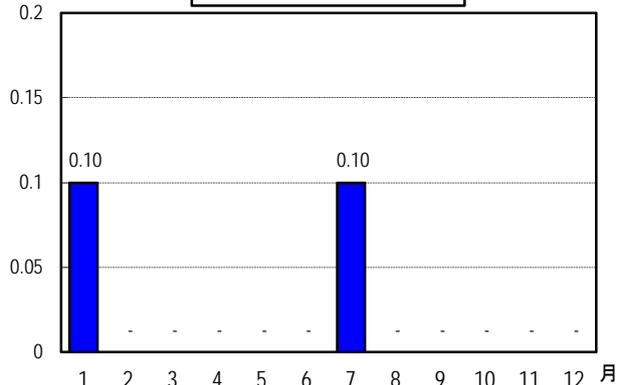
週別定点当たり報告数の推移



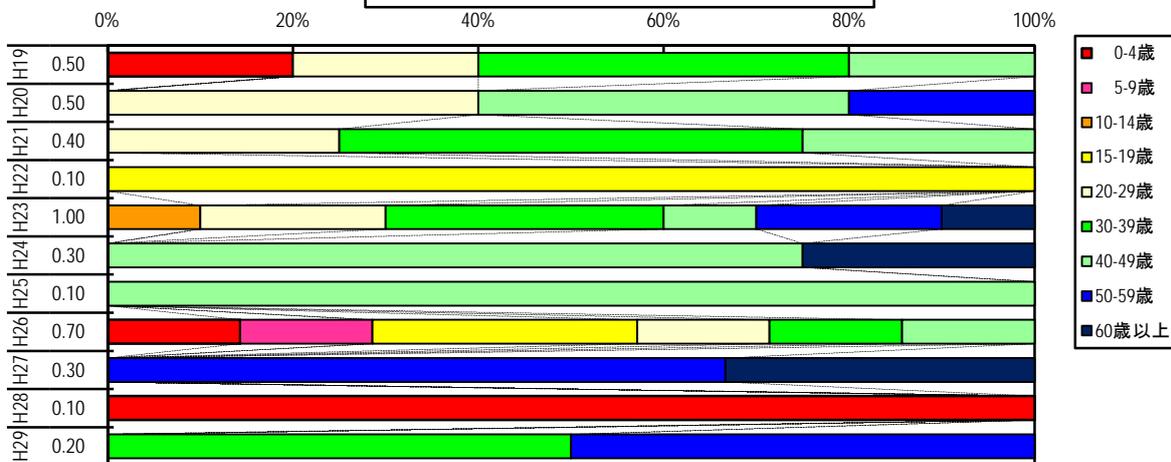
年次別年間定点当たり報告数



月別定点当たり報告数



年次別・年齢階級別定点当たり報告数の割合



(イ) 流行性角結膜炎

平成29年は年間報告数255例、年間定点当たり報告数25.50、年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比0.95、前年比1.62であった。

過去10年間の年間定点当たり報告数と比べると、平成28年、27年、21年に次いで少なかった。

月別定点当たり報告数では、9月(3.30)、7月(3.10)、6月(2.50)が多かった。

年齢階級別では、30～39歳(27.8%)が最も多く、次いで40～49歳(17.6%)、0～4歳(12.9%)、20～29歳(11.4%)の順であった。

